

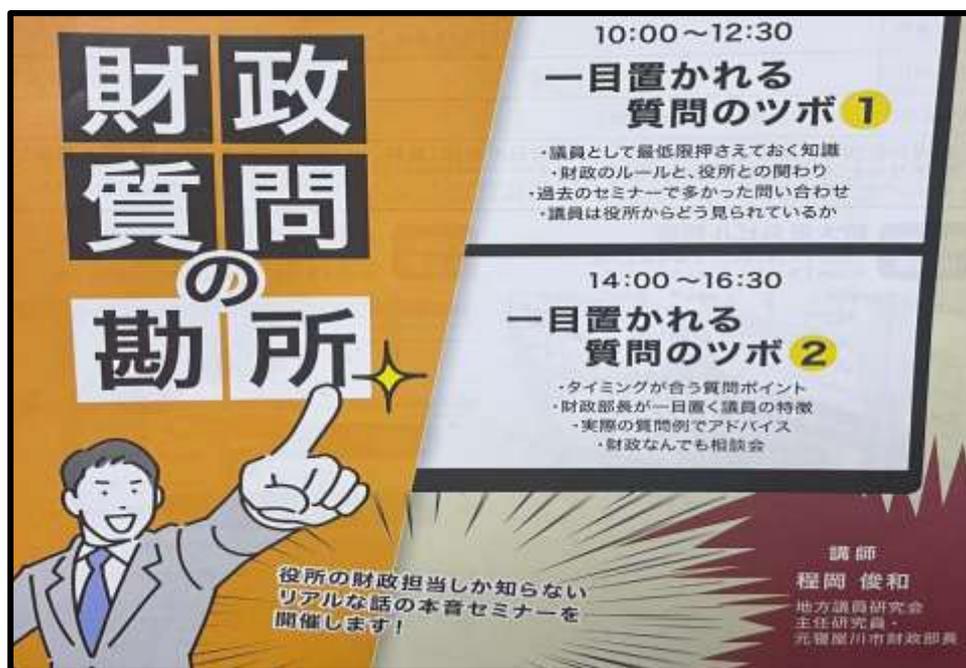
令和 4 年 3 月 31 日

松阪市議会議長 堀端 脩 様

松阪市議会議員 森 遥香

松阪市議会議員 野呂 一平

蒼水会 政策研修参加報告書



USB 音声データ視聴による研修に参加いたしましたので、下記のとおり報告いたします。

日時 令和 4 年 3 月 25 日(金) 10:00 ~ 12:30 および 14:00 ~ 16:30

会場 新大阪丸ビル別館

テーマ 10:00 ~ 12:30 一目置かれる質問のツボ1

14:00 ~ 16:30 一目置かれる質問のツボ2

講師 地方議員研究会主任研究員 程岡 俊和 氏 (元寝屋川市財政部長)

研修目的

松阪市議会議員1期目として、議会活動をより活発化させるため、押さえておくべき財政の知識、ルールを学ぶ。

目次

1. 議員として最低限押さえておく知識
2. 財政のルールと、役所の関わり
3. 過去のセミナーで多かった問い合わせ
4. 議員は役所からどう見られているか
5. タイミングが合う質問ポイント
6. 財政部長が一目置く議員の特徴
7. 実際の質問例でアドバイス
8. 所感

1. 議員として最低限押さえておく知識

(1) 議会のルール

議会は議会毎の手順を踏んで開かれる。覚えなくとも身につけてくることである

(2) 役所のルール

国が定めたルールに基づいて行われる事はどこの役所も同じだが、やり方はそれぞれ
議員は住民相談を受けた際応えられるように、日々各種行政手続きに関して勉強が必要

(3) 議員の心構え

住民の代表である！市民の想いを背負っているという心構え

(4) 市の歴史

市町村合併や、各産業の内容、何十年も前の歴史を知らない新人がいる
先輩議員に聞くなどして、市の成り立ちの経緯を勉強すべき！

はじめに

(1) 会派要望の時期と回答時期

市町村・・・10月に予算要望

国・・・8月に予算要望、12月末までに来年度予算が確定する

国がらみの予算要望は1年前迄に予算要望をしないと次年度の事業に間に合わない！

(2) 予算や財政を難しく考え過ぎない(歳入を確保すれば良い)

(3) 財政について職員は難しく答弁するが、理屈は意外と簡単

議員への経緯と丁寧に喋ろうとするので難しい＝長い答弁になる

「YES/NO 答弁」にするとシンプル！

(4) 部長や課長は20年、30年仕事をしてきたプロ

特に技術がらみ(電気、土木等)職員は詳しい

議員で言う所の10期のベテランが、部長級である

(5) 数字の答弁とその評価は理解しやすく良い質問

例:人口が1000人増えたが、学校の設備は今まで良いのか？

高齢者の割合が1割増えたが、交通施策はそのままで良いのか？等

(6) 予算と決算の認識は大切

決算は1年半後に行われる。4月になったら急いで要望の実施後押しをしていく

2. 財政のルールと、役所の関わり

- ◎職員は、議員に細かな横槍を入れられたくないため、大筋のみを話す
⇒それを踏まえ、議員は細かにチェックをしないといけない
- ◎議員の質問は必ず事業を良くする
⇒職員は間違っと思ったら議員に言わず修正するが、結果、質問は市の為となる
- ◎国の予算スケジュールと国への要望時期＝国と市町村の予算スケジュールは違う！
⇒国へ要望する事業は、1年前までに要望を行わないと間に合わない
- ◎決算カードの見方(総務省 HP で20年分閲覧可能)
【ポイント】借金額、貯金額、毎年の実質収支
【類似団体比較カード】類似市町村との比較を見ることで、我が街の財政状況がわかる
- ◎地方交付税(7月に公布、全国で16～17兆円)
国・・・税金6:4仕事
地方・・・税金4:6仕事



3. 過去のセミナーで多かった問い合わせ

- (1)臨時財政対策債⇒借金に変わりはないため、発行しないに越したことはない
- (2)わが市の財政状況⇒決算カードの見方で大切なことは、類似団体の平均値との比較!
- (3)財政調整基金の水準⇒普通預金のようなものでどんな用途にも使える
※どれだけ貯めておくと良いのか? ⇒200億円/人口10万人、年間予算の10%目途
- (4)「市にお金がない」⇒中長期の財政計画を基に示してもらおう、どこかで捻出が可能

4. 議員は役所からどう見られているか

- ◎職員は、議員の質問の仕方で知識の浅い、深いがわかる
- ◎前向き⇒肌で感じるしかない、「検討」から「調査研究」に変わったなど
- ◎自分は与党のつもりでも野党と捉えられていることがある
- ◎市長や部長の仕事がしやすくなる質問がある⇒誘導でより良い市政の為後押しを!

5. タイミングが合う質問ポイント

- (1)所信表明・・・首長交代のタイミング、前の首長とどう違うのか?
- (2)予算編成方針・・・決算終了段階で予算編成方針を作り始める為、12月議会で方針確認
⇒来年度の予算化に間に合う可能性がある! 自由な一般質問をするなら6月

(3) 市政運営方針⇒3月迄に

(4) 決算時期

⇒前年度負担行為/3月末、4～5月/税負担、6月/地方債発行、6月末/決算額確定⇒実際に使った額なので、質問はしやすい

⇒当初予算概要説明に見合っているか？大幅な不用額、過大な見積もりをチェック！

⇒予算編成方針が出る前なので、次年度予算に活かすことができる

(5) 国の動向の変化

⇒土木建築関係は国絡み！国の予算確定と市町の確定時期が違う！

⇒令和5年度に事業化したければ、令和4年度頭の時期から話をする必要がある

(6) 個別課題が生じた時⇒まとめてではなく、その都度職員へ課題共有！職員を現場へ！

市民生活・自然災害・福祉・教育・産業・まちづくり etc…

6. 財政部長が一目置く議員の特徴

◎人間性⇒職員はよく見ている！若手議員がきつい物言いをする時は、より気を付ける

◎質問

①市のイメージアップの困難さ(財政面)

⇒どのように？具体的に財政面をクリアする方法を提示

②市税が他市より高いという誤解⇒高いと思わせる市政運営をしている、市税は全国共通

例：町が汚い、道路が傷んでいる

③人件費への理解の困難さ(職員数、給与)

④市税徴収率への取組(特別徴収)イメージ

⑤子どもへの投資の費用対効果

⇒他市町へ転出⇒税金が故郷へ循環しない⇒国内で人口を取り合う悪循環

⑥多額納税者への配慮

⑦他団体の事業導入時は要注意(職員感情は不良)

⑧議員視察より職員視察(本音と建前)⇒議員には良い所しか見せない

⑨情報は官庁速報(時事通信)で、国や他団体資料を入手⇒総務省 HP も要チェック！

⑩都道府県職員の壁(プライド)のクリア

⑪攻撃型議員、柔軟型議員、提案型議員…どんなタイプの議員でも、職員は味方に

⑫市民ニーズは理解できても満足度が大切(満足度調査)

⑬企画部門と財政部門の基本的な相違の理解(質問時に指定)

⑭中長期の財政計画

⇒いかに先読みするか。高額工事に対しては、「財源に無理はないか?」を必ず確認!

⑮特別会計・企業会計への基準外繰り出しの課題

⑯目的基金の積極的活用

⇒明確な使用用途を策定し、市民の期待に応える活用を!

⑰公共施設総合管理計画・老朽化対策

⇒先進事例は“本当に成功しているのか”その目線でチェック

⑱建築設計の迅速化とストック

⑲広域行政は責任があいまいで負担金に対して甘い

⑳広域行政の団体間の意識の差(行革、予算)

㉑基金運用(国債＝短期)購入(アンダーパーのみ)

㉒会計間資金運用による一時金借入金減

㉓契約での比較見積と総合評価

㉔監査の適正化

7. 実際の質問例でアドバイス

①臨時財政対策債を発行可能額は全額発行すべきか

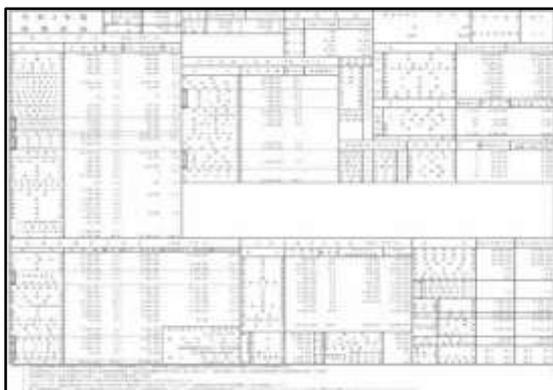
②地方財源措置をすると国は言っているが、全額措置がされているのか(地方交付税)

③過疎化が進んでいるが積極財政が必要ではないか

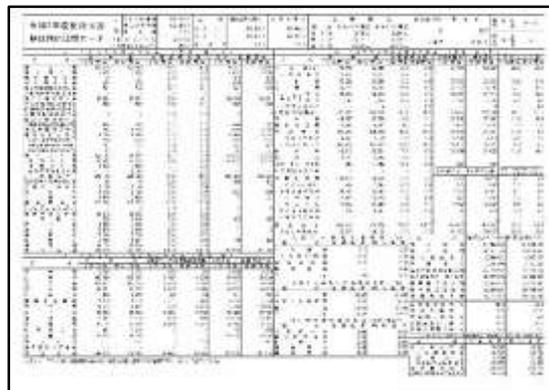
④実質単年度収支の大幅黒字が見込まれるが、基金で積むべきか

⑤地方債を抑制する方が良いのか

⑥自分の団体は健全な財政運営がなされているのか

A screenshot of a financial statement card for Matsuyama City, Heisei 22nd year final account card. The card is a complex grid of numbers and text, organized into multiple columns and rows, representing various financial categories and their values.

松阪市 令和2年度決算カード

A screenshot of a financial statement card for Matsuyama City, Heisei 22nd year similar group comparison card. This card compares the financial data of Matsuyama City with other similar groups, showing a side-by-side comparison of various financial metrics.

松阪市 令和2年度類似団体比較カード

8. 所感

(森 所感)

職員が議員へ持つ思いや考え方を、講師の実体験をもとに知ることができた。議員は市民の代表であるという、「重い想い」を背負っている自覚が必要と、講師は発した。

また、職員(特に課長、部長級)は行政のプロであるという点。議員の質問内容で、我々の知識・勉強量の強弱がわかるという言葉は、真摯に受け止めないといけないと感じた。冒頭で講師は、「1期生議員では議会の事はわからなくて当然。2期生以降か、もしくは1期生でも3～4年目となると、やっとわかるようになってくるもの」と説明した。その通りなのかもしれないが、やはりその通例を超えられるようにしていきたい。

そのため、実践的な学習方法の一つとして、「決算カード」を読み解くことが挙げられた。総務省HP では都道府県及び全国市町村の決算カードと、わが市と類似した市町との比較を「類似カード」として見る事ができるとのことで、早速閲覧してみた。「決算カード」は令和2年度までを20年分遡る平成13年度以降、「類似カードは」平成18年度～令和2年度までが掲載されていた。講師が言うように、この決算カードを見る事で、市の財政状況が一目でわかるようになっている。(と言っても、見方はまだまだ勉強が必要だが…)決算カードを年度毎に見ていくと、例えば、議員報酬がどのタイミングでいくら下がったか、寄付金が多かった年、災害の影響を受けている年…などが見受けられた。また、平成17年の合併前の旧松阪市・三雲町・飯南町等の財政状況も平成13年まで遡り閲覧することができた。研修内で講師が言っていた、「議員になるまでの市の歴史、成り立ちを勉強することが大切だ」という言葉がすぐさま思い返された。また、類似カードにおいては、松阪市と類似した市町との比較状況が一目瞭然である。例えば、同規模の市町に比べ松阪市の議員報酬は月額約4万円低いことがわかる。その他にも、民生費は類似市町より高額だが教育費は低い、なども読み取れる。引き続き、分析を試みようと思う。何より、「財政」の言葉や見方に慣れるためには、この決算カード及び類似カードの閲覧は最適に思う。

最後に。動画収録の加減か、一部聞き取りづらい箇所があり、残念であった…。議員は話をわかりやすい言葉にかみ砕き、市民へ伝えることが仕事である。いくら内容は良くとも、聞こえづらい「音」では心に響かない。引き続き、心と耳に届く言葉を心がけようと思う。

※決算カードの一例を次ページに掲載

